

「川越散策」

(7 班と 10 班+1 名)

杉山 孝好

5 月 8 日(火) 本川越駅に 9 時、7 名が集合。天気は早朝まで雨で、散策した時は曇り空でした。晴れ女と晴れ男が揃ったグループと自我自賛し、さあ出発。

1893 年(明治 26 年)の川越大火で焼けずに残った蔵造り(大沢家住宅や松屋呉服店など)を手本に、100 軒以上もの蔵が造られた。その残っている多くが蔵造り通りに面している。10 時前だったので店は半分くらい閉まっており、人も少なく、静かな川越の町並みが散策できました。札の辻を右に曲がって、市役所前に差し掛かると太田道灌の像が見えた。江戸城や川越城を作った人であるが、やまぶき伝説「七重八重花は咲けども山吹の実のひとつだになきぞ悲しき」に登場する人でもある。昨年川越学園に通っているときに、このやまぶき伝説も知らないのと言われたことを思い出した。その後、川越市立博物館へ。ガイドの予約はしなかったが、入り口の人に交渉すると OK とのこと。まず、江戸時代の城を中心とした川越町の立体模型を見学し、4 重 5 重に城の堀が造られていた。次に 108 歳まで活躍した天海僧人。家康から信任を受け、喜多院(旧北院)の名を受け賜わり、川越町を発展させたとのこと。その他に蔵造りの内部構造や鬼瓦と影盛の実物大模型など、約 1 時間の説明でした。その後、川越城本丸御殿へ移動。殿様が歩くけやき通路と高天井、家臣が歩くつが通路と低天井の違いなどを見学しました。

計画より少し早い 12 時 5 分前に午前の部が終了。これからレストランへ移動。川越に長く住んでいる人の勧めで和食を安く食べられる「レストラン 阿里さ」へ行ったところ、10 名くらいの団体と 2~3 人のグループや個人などがおり、7 名が座れる場所はないと断られた。平日で目立たない場所にあるから混雑しないと思っていたが、12 時 15 分はタイミングが悪かった。次の候補は鰻の老舗「いちのや」。順番待ちコーナーが広く作られていて、いつもは長い行列がある。しかし、今日は待ち時間もなく案内された。料金は安くない。1 か月前からメンバー内でネット上で議論となり、今日も集合してから鰻料理について話し合ったので、みなさん大人の判断だった。大変おいしく頂き、楽しい話もできました。

午後のコースは喜多院と中院である。建設時は南院もあったが、現在は残っていないと話しているときに、南院の墓地を発見した。歴史本で知ってはいたが、墓地を見て、南院が本当に存在したことを確信した。

本川越駅近くのカフェ ハイブリッドでコーヒータイム。ここで出てきたラテアートにみなびっくり。どうやって描くのか。飲むのがもったいない。

今日もコミュニケーションをいっぱいし、笑顔で解散しました。



蔵造り通り



太田道灌像（市役所敷地内）



鰻ランチ（いちのや）



狭山茶発祥の地（中院）



蔵造りの内部構造（市立博物館）



ラテアート（café hybrid）